

島根の若手総合診療医が 総合診療科専門医を 選択した秘密

上西凜太郎¹, 小田川誠治^{2,3}, 上野信行^{2,4}, 遠藤 健史^{2,5}
坂口 公太², 和足 孝之², 白石 吉彦²

¹島根大学 医学部医学科, ²島根大学医学部附属病院 総合診療医センター, ³島根県立中央病院 地域総合医育成科,
⁴浜田市国民保険あさひ診療所, ⁵町立奥出雲病院, 総合診療科, 隠岐広域連立隠岐島前病院, 内科外科



背景・目的

2018年度から総合診療専門医制度が始まりその育成が本格化している
その流れの中、島根県は総合診療専攻医割合は2020年度から3年連続で

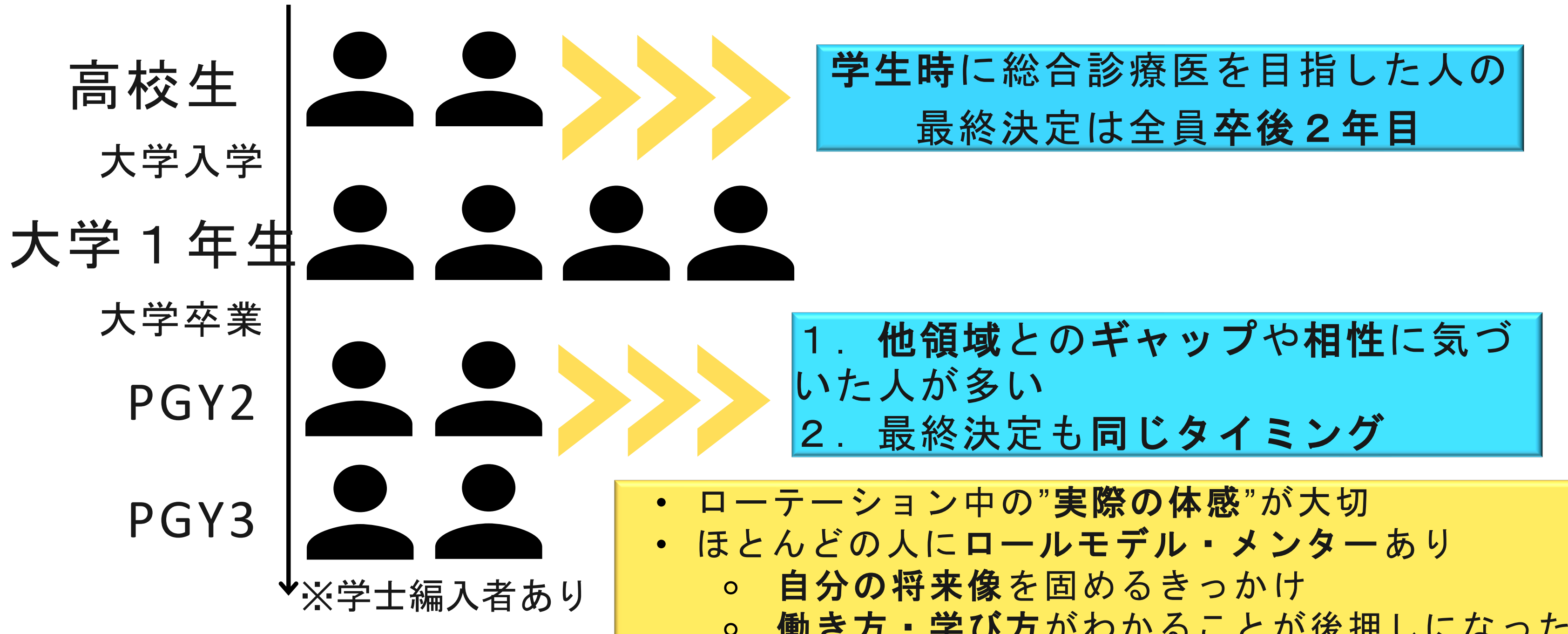
全国1位しかし、島根県の専攻医が総合診療を選択した理由、専攻医になるまでのモチベーションの変化など総合診療を選択する要因はよく分かっていない

これから総合診療科を選ぼうとする学生、研修医にとって指針となる先人達の軌跡を調査したい
島根県の総合診療専攻医が総合診療を選択するまでのモチベーションの変化、選択に至る要因を調査し、島根県で総合診療専攻医割合が高い背景を明らかにし、総合診療医を増やす方策を考える。

方法

島根県の専攻医歴1～3年目の総合診療専攻医を主対象としたアンケートを実施した。
経緯や現場の認識を調査するため選択式と自由記述の回答形式を併用した。

総合診療医を初めて志望したタイミング

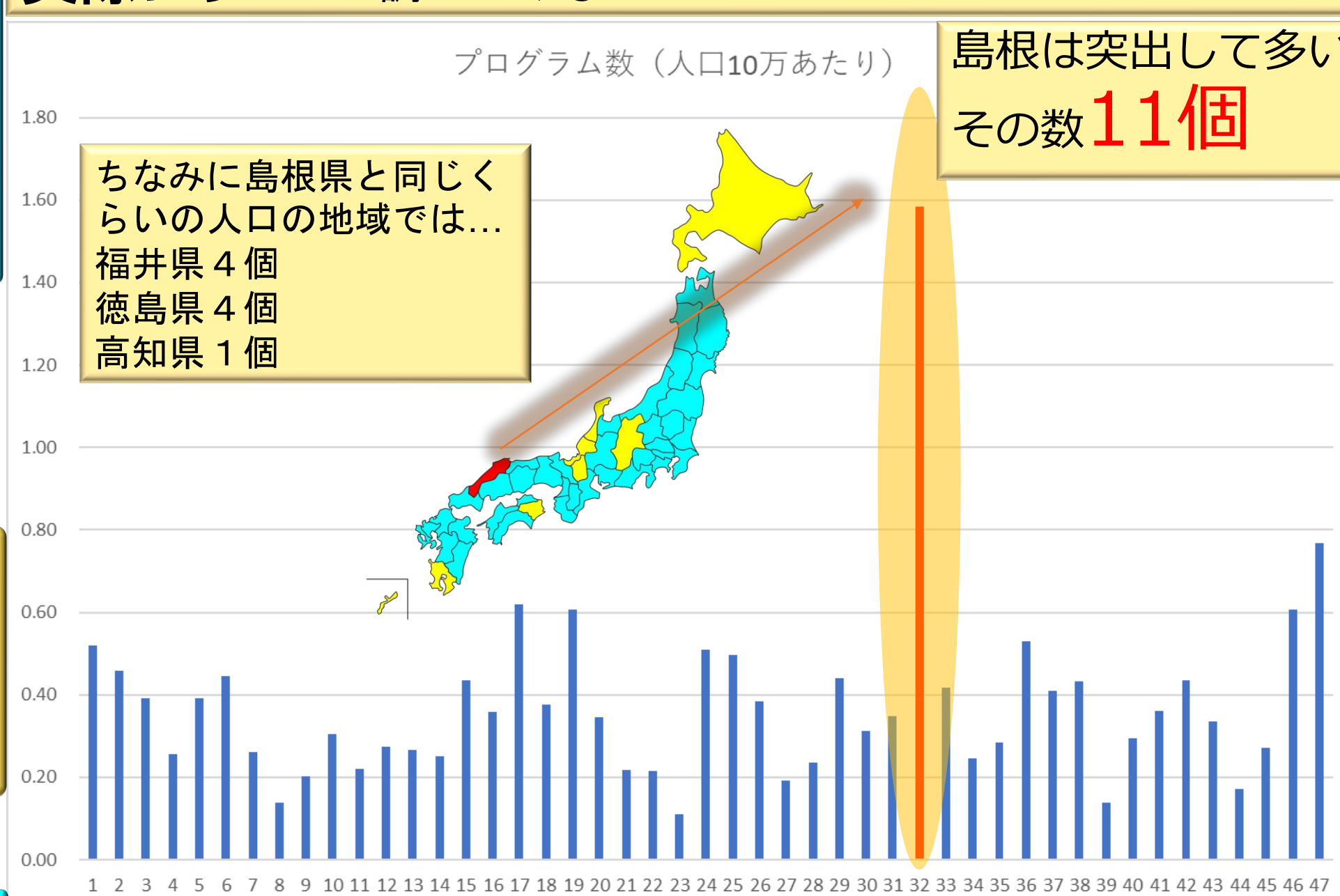


島根で総合診療専門医を目指す強み

- 島根県全体に総合診療医を育てようという風土がある
- 地域間、病院間の垣根が低くなりつつあり、横のつながりに強い
- 他県より地域医療を意識する指導医が多い
- 幅広く手技を学べる（エコーなど）

島根の総合診療専門医プログラムの課題

総合診療専門プログラムが多すぎる！...との声が多かった
実際に多いのか調べてみると...



総合診療医を目指す者への教育意識が県全体で高い

- 実際のプログラムなど
- 島根大学医学部附属病院総合診療医センター
 - 高度総合診療力習得コース
 - しまね総合診療の集い

過半数の総合診療医が島根県の総合診療専門プログラムを後輩に勧める一方でこの乱立は大きな課題だと指摘した

まとめ・考察

- 病棟での実習・ローテーションなど**実際に体感する**事が診療科の決定に大きく関わっていた
- 学生から現場を見る・知る・経験することが大切だ
- 県全体での教育意識が高い一方でプログラム数の多さについて課題と感じている医師が多い

今回は学生にとって**少し先輩の専攻医**を対象として調査した。本調査は学生から医師になるまでの総合診療を選ぶ過程について島根県の現状を知る一助となった。
今後はさらに調査範囲を広げ総合診療領域の実像を明らかにしたい。

学生へのメッセージ

- 総合診療科に進まない人も一度は総合診療の考えに触れてくれると嬉しいです。
- 総合診療医を必ず目指す必要はないですが、何科に行ってもジェネラルマインドは役に立ちます。
- 医学の勉強、病院実習、研究も大事ですが、真面目に勉強してきた知識だけでは診療が進まないことが多いなと思います。学生のうちこそ医療以外の世界に触れて、人間力を高めることが大事だと思います。
- まだまだ全国的に確固たる地位を築いているとは言い難い専門領域だと思いますがこれから開拓していく面白さがあります。

参考文献

総務省統計局「統計でみる市区町村のすがた2022」
一般社団法人日本専門医機構総合診療専門医検討委員会

筆頭演者、共同演者において、開示すべき利益相反(COI)はありません。